

明治5年。南1西3（現在の三越付近）



大正7年ころ。駅前通のアカシア並木



昭和20年。終戦直後の市街地



皆さんと共に考え、 共に行動することを大切にしながら 札幌の未来を切り開いていきます

札幌の街のあゆみ

◎地名の由来

札幌の名の語源については、アイヌ語の「サッ・ポロ」（乾いた広いところ）とする説と「サリ・ポロ・ベッ」（大きな湿地のあるところ）とする説などがあります。

◎人口の推移

（各年10月1日現在）

現市域による総人口	
大正9年	144,630 <small>(第1回国勢調査)</small>
昭和10年	264,304
20年	296,053
30年	487,391
40年	821,217
50年	1,240,613
60年	1,542,979
平成7年	1,757,025
14年	1,846,035

昭和42年。ビルが林立し始めた中心部



現在。JRタワーから南を望む



札幌市長 上田文雄



六月十一日の初登庁から、早いもので三方月が経ちます。この間、ご紹介した通り、施政方針の策定や補正予算の編成などを通じて、

新たなまちづくりの方向性を打ち出してきました。今後、その具体化に全力を尽くしていくためには、今一度、自分の原点に立ち返ってみる必要があると思います、八月中旬、西区の三角山に登りました。

三角山の頂から札幌の街並みを眺めていると、街を形作ってきた先人の知恵と勇気が身近に感じられ、次第にまちづくりへの熱い思いが込み上げてきます。そして、将来を見据えた札幌のまちづくりとはどうあるべきか、あらためて自分自身に問い掛けてみるのです。

私は、これからの市政運営には、皆さんと共に考え、共に行動することが何よりも大切だと考えています。この秋からスタートする「市民自治」「まちづくり」「市役所改革」の実現に向けた三つの計画の策定に当たっても、公募委員の意見、提案をはじめ、皆さんの多くの声を反映させていく方針です。ぜひ、「市民自治が息づくまちづくり」とはどのようなものか、「市民のために！挑戦する市役所」とはどうあるべきか、一緒に考えていただきたいと思います。